

高田東中とのオンライン交流

リンゴ支援の縁で交流

高田東中と飯田東中（長野）

陸前高田

陸前高田市の高田東中学校（伊東孝志校長、生徒159人）の生徒らはこのほど、東日本大震災後から同校に毎年リンゴを贈り続けている長野県飯田市の飯田東中学校（賜正俊校長、生徒197人）の生徒とオンラインで交流した。両校の生徒が顔を合わせたのは震災後初め、高田東中の生徒らは10年間の支援に

対する感謝と、「今後ももつながり続けたい」という思いを伝えた。毎年リンゴ栽培に関する取り組みを行っている飯田東中は、平成23年の震災がきっかけで「被災した地域に元気を届けたい」と、同年から陸前高田市内の中学校に収獲したリンゴを寄贈。25年に市内3校が統合して開校した高田東中にも、昨年まで毎年欠かさず果実を贈っている。

高田東中の生徒らはこれまで、暑中見舞いや年賀状などを送って感謝を伝えてきた。オンラインでの交流は、震災から10年の節目に飯田東中から提案があり、高田東中も賛同して実現した。高田東中側は、

生徒会長（3年）ら生徒会執行部や各委員会の役員計14人が参加。飯田東中側も、生徒会長（3年）ら14人が参加し、オンライン会議システム「Zoom」を通じて言葉を交わした。両校の生徒らは、自己紹介のあと、自分たちの学校の様子や生徒会の取り組み、今後の交流のあり方などについて積極的に発言。流行のアニメやアイドルの話題で盛り上がる若者らしい場面もあり、短い時間の交流ですっかりと打ち解けた様子だった。

開校70年余りの歴史がある飯田東中の生徒らは、昭和22年に飯田市内で大火があった際に、各地から同市に対し温かい支援が寄せられたということも伝え聞いている。東北で大地震が発生したあと、「今まで受けてきた恩を返そう」とリンゴの寄贈を始めたという。

高田東中のさん（3年）は「リンゴをいただき、こちらから何も返せていなくて申し訳ない思いがあったので、今回顔を合わせてお礼ができてよかった。自分たちの知らない地域の中学生と交流できたことも良い刺激になった」と笑顔。

君（同）は「両校の生徒会スロークーガンが『つなぐ』で偶然一緒だったことに驚いた。今後も飯田東中みなさんとのつながり続けられるよう、後輩たちに今回のことを伝えていきたい」と願っていた。

オンラインで飯田東中の生徒と交流した高田東中の生徒ら



2021.8.24 東海新報（岩手県大船渡市）